



丸小だより

平成31年2月28日(木) No.11
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

新しい時代に向けて

校長 新井 篤志

三寒四温といわれるように少しずつ春の気配が感じられるようになってきました。三月は卒業の季節でもあります。丸山台小学校は3月19日の卒業式で83名の卒業生が中学校へ進学します。今年は平成最後の卒業式となり、1つの時代の区切りにあたります。子どもたちにとって印象深い卒業式になるのではないのでしょうか。

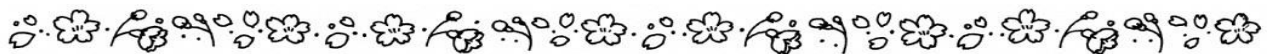
5月から新しい元号にかわりますが、3月から4月の年度の変わり目は、進級・進学や就職、転居など今までとは環境が大きく変化する時期です。期待や希望とともに新たな緊張感が漂い、不安も生じます。しかし、自分自身が気持ちを切り替えて心機一転、新たなスタートを切るのには絶好のチャンスだと考えてほしいと思います。

今年の卒業生は18歳で成人を迎えます。すでに選挙権が18歳になっていますが、大人として、言い方をかえれば社会人として期待されるのが18歳、高校では3年生にあたる時期になります。AIの進歩をはじめとする科学技術の発展等によって12年前の卒業生が生まれた頃とは今は大きく生活が様変わりしています。例えば、スマホや電子マネーの普及など誰もがここまで急速に広がるとは思っていませんでした。職業をみてもユーチューバーなど今までには考えられなかったものが仕事として成立するようになってきました。おそらく卒業生が成人する18歳を迎えるころは今以上に世の中が変わっていると予想されます。

将来の予想が難しい時代に入っていると言われていています。その中で、世の中がある意味便利になればなるほど「人間って何？」ということが問いかけてくるのではないのでしょうか。自分がどのように生きていくのか、自分はどのように社会とかかわっていくのかが自問自答される気がします。

2020年から小学校では新しい教育内容がスタートします。ここで大切にしようとしていることの1つに予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その中で自らの可能性を発揮し、よりよい社会や幸福な人生の創り手となることが期待されています。これからの時代を創り上げていくのは紛れもなく子どもたちです。感性を豊かに働かせながら、試行錯誤を繰り返し、多様な人々と協働しながら人生をよりよいものにしてほしいです。

子どもたちがもつ若さとそこから生まれるエネルギーは何よりも大きな力となるでしょう。そして、その力が合わせれば、希望のもてる新しい時代の創り手となっていくと信じています。



1月に実施した学校評価アンケートの結果をまとめました。それぞれのアンケートで項目ごとに、経年変化も含めて考察を行いました。この結果を学校評価報告書にもまとめました。ご一読ください。

保護者の皆様には、アンケートへのご協力ありがとうございました。文章表記された貴重なご意見は、今後の学校運営の参考にさせていただきます。

【今月の学校便りの内容】

- ・2月15日(金)、16日(土) オープンスクールに寄せられたご意見
- ・2月16日(土) 第2回「まち」とともにあゆむ学校づくり懇話会の報告
- ・学校評価アンケート(保護者・児童・教職員)結果と考察
- ・平成30年度 中期学校経営計画・学校評価報告書